

# つくる会 FAX 通信

第 242 号 平成 20 年(2008 年) 8 月 27 日(水) 送信枚数 2 枚

TEL 03-5800-8552 FAX 03-5804-8682 <http://www.tsukurukai.com>

## 「エルトゥールル号」関西シンポに 800 人が集う！ セルメット・アタジャンル駐日トルコ大使閣下も出席 つくる会への期待が大きく高まる

つくる会関西シンポジウムは、8月24日(日)午後2時から、大阪中央区にあるエルおおさか大ホールに大阪府を中心に近畿各府県から会場一杯の800名の参加を得て盛大に開催されました。

今回のシンポジウムのテーマは「『エルトゥールル号』遭難と日本人」。東京からセルメット・アタジャンル駐日トルコ大使閣下のご臨席をいただけたこともあって大いに盛り上がり、つくる会への期待が大きく高まる結果となりました。

シンポは14時に南木隆治大阪支部事務局長の司会で始まり、まず「エルトゥールル号の遭難」のビデオを15分間上映。続いて全員が起立して、日土両国国歌の演奏・斉唱が行われました。

開会のあいさつには、藤岡信勝会長が立ち、今回のシンポの意義とつくる会の今後の取り組みについての協力を呼びかけました。

セルメット・アタジャンル駐日トルコ大使は「このようなシンポジウムを通じて、トルコと日本の友情の物語が、日本の子どもたちに伝わることは、両国民の相互理解に繋がると確信している」と話されました。大使にはごあいさつの後、大阪支部の濱野矢代依さんから花束が送られ、会場は大きな拍手に包まれました。

講演は、まず、首相補佐官で参議院議員の山谷えり子さんが登壇。「エルトゥールル号遭難と日本人」をテーマに話されました。次に外交評論家で当会顧問の田久保忠衛氏が、「日露戦争とトルコ国の物語」をテーマに講演されました。

シンポは休憩を挟んでパネル・ディスカッションに入りました。

パネリストは山谷えり子、田久保忠衛の両氏に加え、エルトゥールル号の遭難現場となった和歌山県串本町前町長の田嶋勝正氏、エルトゥールル号に関連する『友情』という本を町独自で出版、小学生の教育に活用した福岡県篠栗町前町長の横山久義氏の4名が登壇。濱野晃吉大阪支部長がコーディネーターとなって進められ、日土両国に友情の素晴らしさに会場は感動につつまれました。

最後に、閉会のあいさつに立ったのは、浅野總一郎大阪支部副支部長。「今回のシンポの成功に感謝するとともに、より一層つくる会への理解とご協力をお願いします」と締めくくりました。

このように関西シンポは、多くの皆様の協力によって大きな盛り上がりを見せ、つくる会へ

の今後の期待が大きく高まる結果となりました。

なお、シンポの詳細は、『史』11月号で詳細にお知らせするとともに、DVDとして販売することとしています。

このシンポの様を、産経新聞（大阪本社版）は、8月25日付朝刊2面で次のように報道しました。



「エルトゥール号」事件でシンポ

### 無償の精神 学ぶ意義語る

明治23年に和歌山県串本町沖でトルコ軍艦が遭難、乗組員約70人を地元住民が救った「エルトゥール号」事件について考えるシンポウム「トルコ軍艦『エルトゥール号』遭難と日本人」（新しい歴史教科書をつくる会主催）が24日、大阪府中央区で開かれた。写真。事件やその後のトルコと日本の友好関係を子供たちに伝える取り組みを行ってきた元自治体首長らが、先人の偉業を学ぶ意義について話し合った。

串本町の田嶋勝正・元町長は、乗組員を治療した医師たちが、政府の治療費精算の通達に対して「治療費は遭難者への『義捐』にあ

ててほしい」と申し出た書面を町内の寺の金庫から見つけ、先祖たちの「無償の精神」に感動したというエピソードを披露。

事件を子供向けに説明する本を町独自で作成、小学5年生全員に配布した福岡県篠栗町の横山久義・元町長は「現代人は当時の人たちより知識も学歴もあるが意欲は劣る。心をはぐくむ教育が必要と考えている」と教材化の動機を語った。

トルコのセルメット・アタジャンル駐日大使も出席、「日本の温かい扱いをトルコはいままで忘れたことはないし、これからも忘れません」とあいさつした。

産経新聞（大阪本社版）8月25日付朝刊

月刊誌『自由』9月号に、杉原誠四郎理事の「よりよい教科書が子供の手に届くために」が掲載されております。是非ご覧下さい。

以上